

A—16 妊娠・産褥期における酸味嗜好について —酒石酸濃度に関する官能テスト—

日本総合愛育研究所

武藤 静子
○村田 寿子
土井 正子

1. 妊娠，産褥，授乳期における生理的変化の1つにしばしば食物に対する嗜好の変化が上げられる。殊に妊娠中には酸味に対する強い嗜好の現れる事が多い。これが何によるものかは別として，食物調理の観点からこの変化の様相を把握しておく事は，母体の栄養獲得上重要である。食物の酸味には各種の有機酸が種々の割合で関与し，酸味そのものの解明も簡単ではないが，今回はまず単一の酸を用い，妊娠・産褥中における嗜好を官能テ

ストで検索した。本報告は酒石酸に関するものである。

2. 対象は愛育病院の母親学級に出席している妊婦及び同院で出産した産褥婦約50名，対照は同研究所に勤務している婦人17名である。官能テストに用いた食物は寒天0.5%，蔗糖18%，レモンフレーバー，黄色々素からなる寒天ゼリーで，これに1級の酒石酸を(A) $8.3 \times 10^{-4}M$ (B) $13.4 \times 10^{-4}M$ (C) $18.4 \times 10^{-4}M$ の三段階の濃度に加えた。この3種のゼリーをランダムに配列して対象者に供し，質問紙に(1)酸味の強さの順序，(2)最も好むものを記録させた。

3. 酸度の強さの正解者は，全平均約69%であったが，対象別にみると対照と産褥婦にくらべて妊婦は低率であった。嗜好は全体としては中間濃度(B)を好む者が最も多かったが，これも対象別にみると，妊婦の嗜好はA B Cにほぼ同程度に分布しており，対照及び産褥婦の嗜好分布と著しく相違した。